

## 平成26年度島根大学入学式 学長式辞

春爛漫の今日のおよき日に、多数のご来賓、ご家族の皆さまのご臨席をいただき、平成26年度の入学式に、総勢1,530名の新入学生の皆さんを迎えることができました。本学教職員並びに在學生とともに、皆さんのご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。

島根大学は、昭和24年に旧制松江高等学校、島根師範学校を母体とする新制大学として発足、県立島根農科大学を国立移管して旧島根大学となりました。平成15年の旧島根医科大学との統合により、5学部、6研究科で約6000名の学生を有する島根県唯一の国立大学となり、地域の教育、研究、医療の拠点として発展してきました。

島根大学憲章には、知と文化と医療の拠点として、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとうたっています。島根大学ではこれを実現するために、グローバルな感性を持ち、ローカルに活躍する人間力を持ったグローバル人材を養成したいと思っています。すなわち、自らのアイデンティティをしっかりと持ち、国際交流等を通じて人間の多様性を理解するグローバルな感性を持って貰うための教育、そして、地域での多彩な社会体験を実践教育として取り入れることで、柳の枝のように柔軟で折れにくい人材を育てたいと思っています。

社会で活躍するためには、狭い専門分野だけでなく幅広い交流により、フレキシブルな考え方を持つことが必要です。島根大学では総合理工学研究科と医学系研究科で医理工連携大学院コースを開設していますが、昨年からは、全国でもユニークな学部の壁を越えた、例えば総合理工学部や生物資源科学部と医学部で共同研究につながる卒業研究も開始しています。基礎研究の成果を応用研究に発展させることが出来る可能性を秘めており、担当の教員も学生も張り切っています。

学部教育においても、昨年度から多様な専門分野を勉強できる学際副専攻も取り入れました。例えば米国の大学留学のための資格をゴールとする英語高度化副専攻コースは定員40名に対し47名が参加して着実に成果を上げています。その他環境教育副専攻、松江発のプログラミング言語である Ruby 副専攻などを立ち上げています。また、昨年からは文部科学省の「知の拠点プロジェクト」に採択されたこともあり、地域活性化を目指す大学として「国引きジオパークセンター」などの戦略的プロジェクトセンターを10以上開設し、研究だけでなく、専門的な副専攻も立ち上げていく予定です。二度とない学生時代です。忙しくてもこれらの副専攻で多くのことを学び社会で役立つ実力をつけてもらいたいと思います。

これからの大学は入学から卒業までではなく、卒業後もずっと皆さんを支援し続け

と一緒に大学パワーを強化していくエンrollmentマネジメントが重視される時代になります。島根大学では一方的な支援ではなく、双方向システムの学生支援体制を強化する仕組みを作る計画ですので、保護者の皆様にもご協力のほどよろしくお願い致します。私は、学長就任以来、毎月学生と学長室で昼食会を行っていますが、さらに開かれた大学を目指して昨年からは学長室付きの学生補佐、市民補佐制度も立ち上げました。時代のニーズにあった教育システムを皆さんと共に作って行きたいと思っています。

また、この地域でかつて栄えた古代出雲の国は古事記の神話部分の3分の1を占めていますが、2000年前の四隅突出型墳丘墓や荒神谷遺跡で発見された日本最多の358本の銅剣など、従来の通説を覆す事実が判明し、神話の裏に隠された本当の姿が解明されつつあります。

このような古代史を学び実際のフィールドで体験出来るのも島根大学ならではの「地の利」です。また、茶道具ランキング「古今名物類従」の著者である第7代松江藩主の松平不昧公が育んだ茶道文化を始めとする優れた文化が根付いています。

この文化を学ぶために昨年からは一般の方も聴講できる「出雲文化学」を開講し大変好評です。古代出雲から不昧公の茶道文化、ラフカディオ・ハーンまで中身の濃い講義です。また、多くの市民の皆さんに自由に大学に来て学生と交流してもらえる開かれた大学を目指して、今年度からは市民パスポート会員制度も立ち上げました。

先ほど述べたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、実は島根大学の前身である島根県尋常師範学校の英語教師として、この松江で1年間教鞭を執った恩師であります。松江藩士の娘小泉セツと結婚してその苗字を名乗り、名は「八雲立つ出雲の国」になんで八雲としたとされています。日本研究家で東大教授のチェンバレンの古事記の英訳を読んで日本にあこがれてきたハーンは、真っ直ぐこの松江に来て神話のふるさとを精力的に巡り、名著「知られざる日本の面影」を短期間に書き上げ世界に紹介しました。島根大学図書館にはハーンに関する多くの資料がありますが、ハーンの手紙を読むと日本で最も愛したのは出雲の国であったことがよく分かります。すなわちここには古き良き日本の心、文化が残っていることを書き記しています。このような日本の心の恩人ともいえるラフカディオ・ハーンが島根大学で皆さんの先輩を教えたことを是非誇りに思ってください。

島根大学での学生生活が充実した意義のあるものになることを期待して式辞とさせていただきます。

平成26年4月4日

島根大学長 小林 祥 泰